

CSI事業・領域2

機関リポジトリの評価システム

千葉大学・三重大学

基本的な考え方

- 機関リポジリの活動を総合的に評価するための枠組みを検討し、各図書館が自己評価できるような指標を策定する
- 単に登録レコード件数の増加だけではなく、リポジリ構築、利用にかかる諸活動を総合的に評価するものとなるように配慮する

基本的な考え方

- この指標が評価のためだけではなく、目下機関リポジトリを新たに構築しようとしている大学に対して、構築過程において何をすべきかを具体的に示す指針となることをめざす

評価項目

1. リポジトリ構築／運用に係る整備状況
2. コンテンツ収集／利用の促進に関する活動
3. インプット
4. アウトプット

リポジトリ構築／運用に係る整備状況

- 学内トップレベルの承認の有無
- リポジトリ構築方針の文書化の有無
- リポジトリ運用規則の文書化の有無
- リポジトリ構築／運用に係る全学的委員会の設置の有無
- リポジトリ構築・運用についての事務組織整備の状況

コンテンツ収集／利用の 促進に関する活動

- リポジトリ開設記念イベントの実施
- 学内説明会（会議／研修形式）の実施回数
- 教員に対する個別啓蒙活動の回数
- 国際ワークショップ等での報告の有無
- リポジトリ・ディレクトリへの登録状況
- 検索エンジンへの登録状況

インプット

- 収録されているコンテンツの種類と件数
- 年間増加件数
- オーバーレイジャーナルの有無
- コンテンツ作成経費
- リポジトリにコンテンツを登録した教員数および全教員数に対する割合

以上の項目については、昨年度におけるCSI事業「領域1」の評価のための指標として、ほぼそのままの形で採用された。

アウトプットを評価する意義

- 一定の基準に基づいて、コンテンツのダウンロード件数など利用状況を明らかにし、それによってどれくらいの情報需要があるのかを明らかにする
 - 需要をなるべく正確に反映する基準確立の必要性
 - 他のメディアの利用状況カウントと共通する基準確立の必要性

アウトプット

- セッション回数
- メタデータ表示回数
- コンテンツダウンロード回数
- レフェラーごとのセッション回数
- 最もよく利用されたコンテンツのダウンロード回数

既に実施したこと

1. AWSTATを利用した統計処理

- AWSTATを利用し、統計データを表示(論文別ダウンロード回数表示のためのプラグインあり:e-repositry用)
- DSpaceのログデータをAWSTATで表示可能にするための変換プログラム開発
 - DSpace用の統計については、標準添付の統計や、ミーニョ大学の統計アドオンがあるが、汎用性・共通性を考慮しAWSTATSを用いて別途作成した。また、最近では、江別の鈴木氏による「EPrintsシステム用の統計パッケージをDSpaceに移植したものが作成、公開されている。
<http://www12.ocn.ne.jp/~zuki/Japanization/others/es-stats.html>

CURATORの統計画面

- <http://mitizane.ll.chiba-u.jp/metadb/statics/awstats.html>

既に実施したこと

2. COUNTER準拠の利用カウントのための フィルターを開発

- 単にCOUNTER準拠の利用カウントを実現するだけではなく、カウントの仕方に様々な議論があることを踏まえ、それらの比較検討を可能にするようなプログラムにした。

今年度実施すること

1. DSpace, e-repository環境における統計処理の高度化
 - 著者単位での統計:(学内の)著者単位のダウンロード回数を採取できるようにする。このプログラムについては公開する。
2. 利用カウントの方式についての比較検討
 - 基準確立にむけて実データを使った実験
3. 実際にCSI参加大学のログデータをもとに、アウトプット指標の算出

本プロジェクトは、個々のリポジトリの総合的な良し悪しの判定を行うためものではない。あくまでも評価のための枠組みの提示である。

中長期的な課題

- 機関リポジトリに求められる最低要件の明確化